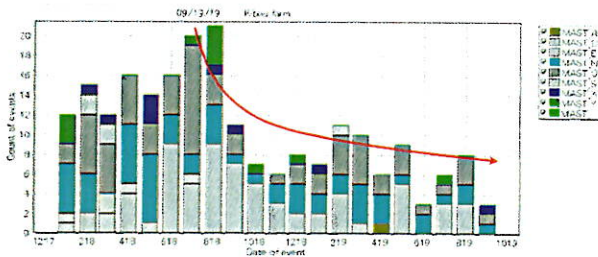


K農場 新牛舎と乳房炎発生2

佐竹

昨年の夏から新牛舎が稼働し始めたK農場。旧牛舎時代の悩みの一つが「乳房炎」でした。下のグラフは新牛舎への移行前後の乳房炎発生を示しています。



新牛舎への移行後、毎月の新規発生は半分以下となり、毎年夏に増加する乳房炎発生が今年は大きな発生もなく経過しています。

乳房炎は様々な要因により発生する疾病です。今回は「換気と安楽性」について紹介しました。

搾乳ロボットによるライナー洗浄

K農場は搾乳ロボットを導入しました。搾乳ロボットには多くの機能がありますが、乳房炎発生に大きな影響を及ぼすと思われる機能で重要なモノの一つが「離脱後1頭ごとのライナー洗浄」です。

1頭搾乳が終了した後のライナー内は、乳頭に付着していた細菌、搾乳中に吸い込んだ細菌、乳房炎原因菌などによって激しく汚染されています。連続して何頭も搾乳すればするほどその汚染は蓄積する恐れがあるでしょう。

せっかく搾乳前に乳頭をキレイにしても、汚染されたライナーを装着されたら何の意味もなくなってしまうでしょう。

この写真は搾乳直後とロボットによる洗浄後のライナー内の細菌を顕微鏡で観察したものです。



離脱後のライナー内
多くの細菌が
付着している

洗浄後のライナー内
細菌はほぼ除
去されている

ライナーの汚染は環境性細菌も伝染性細菌も両方にリスクがあり、K農場の乳房炎発生もこの両者がともに減少しています。

搾乳ロボットは乳頭清拭があまり得意ではありません（細菌学的にみて）。しかし1頭ごとのライナー洗浄により非常に衛生的なライナーを装着することができます。この点が通常の搾乳とは異なる点です。

しかし搾乳ロボットのライナー洗浄にも意外に盲点があります。

赤いロボットの「ライナースチーム洗浄」は大変優れた機能ですが、結構頻りに壊れます。なんか最近乳房炎が多いと思ったらスチームが壊れていて作動していなかった、ということが実際に起きています。

青いロボットでは「洗浄の際に洗浄棒がライナー内に挿入されておらず、洗浄されていない」トラブルがありました。これも試行錯誤の末、ライナー内に洗浄水を噴射できるようにしたことで乳房炎が減少した事例もあります。

このように、ライナー内の細菌汚染とライナー洗浄の重要性は、乳房炎発生にかなり大きなインパクトがありそうです。

通常のパーラー牛舎をもつ顧客農場でも、自動離脱後のライナーを水洗ホースで簡易に洗浄している農場もあり効果を感じているようです